

進 交 会 報

Y 校版

～ 人と進んで交わり、共に資質を高めよ。～

進交会は、横浜市立大学（市大）と横浜市立横浜商業高等学校（Y校）の同窓会です。
「人と進んで交わり、共に資質を高めよ。」は、Y校初代校長の美澤進先生（福沢諭吉の高弟）の言葉です。



祝

Since 1882 Since 1882
祝 校 祝 校
140th 140th

**Y校創立
140周年**

Y校とY専は横浜市大までのあゆみと進交会
横浜商業高校（Y校）は、明治15年
（1882年）横浜商法学校として誕生
し、種々の変遷を経て、7年制（本科5
年・専修科2年）の横浜市立横浜商業学
校となりました。

専修科が、昭和3年（1928年）就業
年限3年の横浜市立横浜商業専門学校
（Y専）に昇格して独立しました。

その後、Y専は昭和24年の新制大学発足
に伴い横浜市立大学商学部を改称し金沢
八景に移転しました。

進交会は、Y校とY専が兄弟校であるこ
とから、Y校・横浜市大の単一の同窓会
として現在に至っています。

【目次】

理事長・校長・Y校会会長挨拶 二
進交会日より 三
「Y校から世界へ」吉田 明 氏 四
「人形との二人旅」山田 さく 氏 五
Y校日より 六
Y校部活動日より 八
租税教室の話 村上 幸宏 氏 一
Y校140年間の部活トピックス 二
Y校校歌と森鷗外 一三
Y校会日より・一四〇周年行事 一四
応援歌「Y校の意気」 一五
訃報・編集後記 一六

発行 一般社団法人 進交会

〒 231-0012 神奈川県横浜市中区相生町 6-111 電話 045-681-6575 FAX 045-681-6585

Mail : shinkokai@nifty.com (進交会) HP: <https://www.shinkokai-web.jp>

Y校創立140周年 と二人三脚の歩み

一般社団法人進交会理事長 古屋 文雄



Y校創立140周年おめでとうございませう。

明治15年に小野光景氏ほか貿易

商組合の先覚者達によって「横浜商法学校」として創立されました。進交会は1897年(明治30年)にY校同窓会としてスタートし、1939年(昭和14年)に名称及び組織をY校同窓会から社団法人進交会に改変し、現在の一般社団法人進交会に至っています。

進交会も本年、同窓会創設125年を迎えます。進交会命名の由来は「人と進んで交わり共に資質を高めよ」の美澤進先生の教えによるものであり、文字通り、今日までY校を母体としてY校と共に二人三脚で歩んできました。今後も歴史と伝統を尊び、Y校150周年に向けて、誇りある「Y校」をさらに輝かせていきたいと思えます。

進交会報第88号Y校版の分冊発行は2年目です。第87号のアンケートの結果は、Y校・市大全体で約1,100名(回答率3%)の方から回答があり、約82%の会員から分冊発行賛成の回答をいただきました。そして、内容についても約78%の方から良好の回答をいただきました。これはY校・市大共にほとんど同じ数値です。その結果今回の88号も分冊発行としました。進交会は「持続可

能な進交会」に向けて次世代会員として中年層、若年層の会員に積極的に仲間入りしていただくことが急務です。この分冊発行により、Y校の母校愛を育み、同窓会である進交会への理解と関心を抱いていただけるものと期待します。

新型コロナウイルス感染症のいち早い収束を願ひ、会員の皆様の同窓会活動の活発化およびご健勝を祈念いたします。

Y校のさらなる発展 を目指して

横浜商業高等学校校長 小問物 晃弘



昨年四月に着任して以来、この約一年半の間、コロナ禍の間ではあるものの、Y校生の明るく元気の良いたいさつ、また日頃の授業、学校行事及び部活動などをとおして、Y校全体の爽やかで限らないパワーを実感しています。

新型コロナウイルスの感染状況は依然として予断を許さない状況であり、今日できること、今できることを、精一杯にやり切る。そうすることとでしか、不確かな未来を、確かな現在に変えていくことはできないと考えております。

さて、今年度はY校の、百四十周年記念の年となります。百四十年間の歴史の中で、歴代の卒業生の方々が、地元横浜をはじめ、日本全国、さらに世界各地で活躍されており、進交会、Y校会からの温かいご支援

は、本校の教育活動を進めていく上でたいへん有り難く、あらためて深く感謝申し上げます。そして、横浜市立大学にも、特別講義などをとおした高大連携事業等においてご指導いただいております。また、地域では、現在の南太田に移転して既に百二十年近くになりますが、日頃から自治会をはじめ、小中学校、区役所及び関係諸機関の方々にもたいへんお世話になっております。

今後のY校はグローバル化がすすむ変化の激しい時代を逞しく生き抜くために時代のニーズに答えられる実学としての商業教育を目指し、生徒一人ひとりがコミュニケーション能力を身につけ、さらに磨きをかけ、自ら考え、行動して社会に貢献できる人材を育成していかなくてはならないと考えております。進交会の皆様方には引き続き温かいご支援を賜りますようによろしくお願い申し上げます。

未来への想いを繋ぐ 年に

Y校会会長 田宮 国興



Y校は小野光景氏他6名の創立140周年を心よりお祝い申し上げます。

立委員により、外国商館との不公平な取引状況を打開すべく、貿易実務に精通した人材を養成する為に創設されました。初代校長に福沢諭吉から推薦された校祖美澤進先生を迎え、1882年(明治15年)横浜商法学校としてスタートしました。

本年は創立140周年に加えて校祖美澤進先生の100回忌を迎え、更には校歌を作詞された森鷗外博士の没後100年にもあたる特別な年です。去る9月17日(土)に校祖美澤進先生の100回忌法要及び墓前報告祭を営み、来たる11月11日(金)に記念式典、12日(土)には祝賀会の開催を予定し、Y校会では多数の皆様のご出席を期待しています。

Y校は商業高校の厳しい環境の中、ここ10年の間に、平成26年(2014年)にスポーツマネジメント科を開設し、平成27年(2015年)にはカナダのバンクーバー市の学校との姉妹校提携、横浜市主催のニユーヨーク・台湾への海外留学支援事業に参画してきました。そして令和2年(2020年)にはコロナ禍により「〇」教育を実施する等、諸問題に立ち向かい着実に前進しています。

Y校会は本年、創設25周年を迎えました。この2年間、Y校会の目的である「会員相互の研修と親睦を図る」「母校の発展に寄与する」ことがコロナ禍により実施できず非常にもどかしい思いがあります。このようなか、昨年は生徒のSDGs活動への支援を行い、今年は商業科の人氣復活を目的としたパンフレットの制作を行いました。10年後の150周年に向けて卒業生、教職員、生徒が一体となって未来への想いを繋ぎ、力を合わせて歩んでいくことが大切です。

新型コロナウイルスの感染拡大がいち早く収まり、Y校会本来の活動ができる日を待ち望んでおります。あわせて母校Y校の発展を祈念し、皆様のご健勝を心からお祈りいたします。

進交会だより

活動報告

※2021年度一般社団法人進交会

総会

日時：令和4年5月28日(土)

場所：進交会館3階

出席者：51名(委任状45名)

右記の通り開催しその結果、第一

号議案 2021年度事業報告

(案)、第二号議案 2021年

度貸借対照表及び正味財産増減計

算書(案)、第三号議案 令和4

年・5年度理事・監事選任の件す

べてが承認されました。

【事務局だより】

◎Y校生への進交会賞(旧奨学

金)、美澤皆勤賞の授与

★令和4年3月2日のY校卒業式で

成績優秀な生徒7名に進交会賞を

授与しました。

進交会賞受賞者(敬称略)

安本杏夏、平林このみ、

野々口董、渡辺花奈、吉井玲央、

三崎海星、高木彩名

★3年間無遅刻無欠勤の生徒53名に

美澤皆勤賞を授与しました。

◎市大生への進交会賞の授与

令和3年度の進交会賞は、令和4

年3月22日市大「カメリアホール」

にて、古屋文雄理事長から15人の学

生に授与いたしました。

進交会報のY校版・市大版の分冊発行のアンケート調査結果

「持続可能な進交会組織の確立と運営」の一環として、令和3年10月発行の進交会報第87号を試験的に分冊発行し、アンケート調査を実施し読者(会員)のご意見を集約しました。回答率は3%でした。

【結果】(令和4年3月末集計)

①分冊発行について(回答1097件)

賛成：Y校 80% 市大 84%

反対：Y校 6% 市大 7%

どちらともいえない..

Y校 13% 市大 9%

②進交会報の内容について(回答1092件)

良好：Y校 85% 市大 74%

不十分：Y校 3% 市大 6%

どちらともいえない..

Y校 12% 市大 20%

アンケート結果は今後の進交会報作成に役立ててまいります。

ご協力ありがとうございました。

《市大トピックス》

市大医学部付属2病院が150周年明治4年、早矢仕有の首唱により横浜弁天橋に仮病院が開設されてから150周年を迎えま

正味財産増減計算書総括表

自 令和3年 4月 1日 至 令和4年 3月 31日 (単位：円)

Table with 5 columns: 科目, 一般会計, 特別会計, 美澤基金, 総合計. Rows include (1) 経常収益, (2) 経常費用, and summary rows for 当期経常増減額 and 正味財産期末残高.

貸借対照表総括表

令和4年3月31日現在 (単位：円)

Table with 5 columns: 科目, 一般会計, 特別会計, 美澤基金, 総合計. Rows include I 資産の部, II 負債の部, and III 正味財産の部.

Y校から世界へ

YKK AP(株)代表取締役会長
吉田 明 (昭47卒)



昭和44年春北九州市立の中学校からY校を受験した。前年の秋に父が仕事上の事故で他界し、急遽母方の実家のある横浜での高校受験となったのだ。試験日間に単身上京し、叔母に付き添われての受験となった。Y校時代の思い出は、この右も左もわからぬ受験から始まって時々九州訛りをからかわれながらもクラブ活動や新たな友人たちに溶け込むうとしたこの時期が屈託も無く学校生活が楽しかったと記憶している。

これ以降は家に経済的な余裕もなかったのでクラブ活動を止め放課後はアルバイトに励んでいたが、次第に自分の可能性についてあれこれ考えることが増え、大学への進学を真面目に考えるようになった。しかし、アルバイト勤めをしながらの受験勉強で大学に現役合格するほど甘くはなく、結局一浪の末に早稲田大学に進学した。母に半期分の授業料と入学金計10万円を何とか都合して貰い、後は奨学金とアルバイトに勤しみながら大学を卒業した。

就職はモノづくりをするメーカーで働きたいと思っていたが、特にこのこという希望は無かったものの、数社から筆記試験の合格通知を頂い

た。その中で2次面接から帰宅すると既に合格電報が届いていたのがファスナー製造大手のYKK(当時は吉田工業(株))であった。面接での配属先は営業職種、勤務先は東京近郊を希望したにも拘らず、富山県黒部市にある主力工場の管理部門への配属となった。折しも昭和52年の北陸は52豪雪と言われた大雪の年であり、上野から信越本線の特急電車に乗り、長野から糸魚川までは除雪された雪が線路の両側にうず高く積まれた電車の窓外の景色が何も見えなかつたと記憶している。工場の管理部門での仕事は主材料の調達であったが、残業も多く極めて多忙な毎日であった。しかし、寮生活や仕事にも慣れてくると、山や海が近く、自然に恵まれた環境だったので冬の休日にはスキー、夏にはテニスや山登り、海水浴と一年中公私共に忙しく動き回っていた。やがて組合執行部の仕事も加わり、34歳までの10年間で余りが文字通りあつたという間に過ぎた頃米国赴任を打診された。

1988年4月に米国東部のジョージア州メイコン市(アトランタ空港から南東60マイル)にある工場に購買担当として赴任した。赴任して暫くすると、日本側で内密に進められていた米国大手アルミメーカーの工場資産買収の米国側窓口を命ぜられた。これは米国メーカーから25%の資産を買収し、それ見合いの原料、電力を持ち込んで生産されるアルミ地金をコストで調達するものだった。日本側のパートナーは大手総合商社と建材の競合相手であった。

当時の私の英語力は米国人との買収交渉が出来るレベルからは程遠く、事前調査(FS)に伴う税務や会計

処理、法的知識も経験も無く、日本から次々にファックス(当時はローパーパー式)で送られてくる契約ドラフトを見て絶対的な能力不足を痛感し、暗澹たる毎日だった。しかし、英語は赴任当初に3ヶ月程米国人の家庭教師を付けて貰ったこともあり、先輩のアドバイスに沿って家では毎日テレビのニュースを観続け、アナウンサーの口の動きや背景の画像、サブタイトルで理解に努めていると、ある日突然ニュースの内容を聞き取り理解できるようになった。また買収契約そのものについても、全てが自社に都合が良いことを目指すのではなく、ポイントを絞って相手に譲るべきものも考えられるようになった。パートナーの先輩からのアドバイスでスツと肩の力が抜けた。また一連の作業を通じて弁護士やコンサルタントをどう起用するかといったコツのようなものを学び、その年末に無事調印にこぎつけた。当時の米国社社長が膨大な契約書にサインをしたクロスボールペンを褒美に頂いた喜びは今も忘れられない。その後管理統括副社長から製造担当副社長となつての7年間の米国赴任だったが、この一連の買収手続きを完了できたことがその後の大きな自信に繋がった。また米国の赴任生活は様々な苦労も多かったが、黒部工場時代に家庭を持っており、妻や赴任当時8歳と3歳だった息子達もテニスや水泳、私はゴルフと皆英語も話せるようになり米国人とのカントリークラブ生活を大いにエンジョイしている。と帰国命令が出た。

1995年3月に帰国し、コーポレート本社、ファスニング事業本部を経て2011年に取締役財務政

策、経営管理担当同時に YKK APの取締役を兼務し、2012年に取締役副社長CFOとなった。経理・財務を経験していない初めてのCFOだった。米国赴任中や帰国後も経理・財務部の先輩方から会議の席で私には経理的なセンスがあると言われ面映ゆい思いをした。彼等は私が商学部卒ではあるものの社内の職務歴だけを見てそう言ったのだらうが、実はY校で簿記の実践を学ぶ基礎が出来ていたこと、そのレベルは大学でもさしたる準備をしなくても優以上の評価が取れていたこと、を知らなかったせいだと考えている。Y校の商業実践教育のレベルは高い。

2020年4月に取締役は兼務するもののYKKの副会長からYKK APの会長に就任した。YKKグループは世界72ヶ国、地域で事業展開している。私は米国での赴任経験しかないが、出張ベースを含めてこれまでにと25か国を訪問した。私は33歳で初めて海外に出たが、少し遅かったと思っている。Y校の後輩たちには自らの可能性を求めて早くから海外に飛び出すことも選択肢の一つとしてくれることを期待している。

YKK AP株式会社(2021年度)

売上高	4464億円
資本金	140億円
従業員数	16788名
(内 海外 4158名)	
事業内容	建材・建材加工機械等の製造販売
窓と猫のTVコマーションシャルでお馴染み	

人形との二人旅

山田 さく(昭45卒)

ある時は若殿と腰元、ある時はご主人様とメイド。またある時は売れない歌手とマネージャー。衣装を変えカツラを変えて、変身また変身。百均に行けば小道具探し。電車の中では台本作り。人形との二人旅を続けて何年になるだろう？

すでに立派なシニアとなった今、昔を懐かしみながら楽しい老後をすごしている。そして傍らにはいつも、相棒の腹話術人形がいる。

私が人形との二人旅を始めたのは、高校の非常勤講師を辞してからである。看護、介護、保育などに進学希望の生徒たちに「福祉」という科目を教えていた私は、授業の中でしばしば「腹話術」を取り入れていた。人形は不思議な魅力を持っている。人前に立つとき、人形がいれば、一人ではないので心強い。自分の口からは言いにくいことも、人形ならハッキリ言ってくれるし、言われた方も人形が喋っているんだからと許容しやすい。また自分の想いを人形にしゃべらせることで、自分の本当の気持ちに気づくこともできる。人形そのものが癒しにもなるし、見る人それぞれの思い描く対象の人にもなる。老人ホームに行けば、その方の孫になり、幼稚園に行けば、子どもたちのライバルにもなる。もちろん仲良しの友だちにも。家に帰れば、可愛い女の子、やんち

やな男の子。やさしいおばあさん。酒飲みのおじいさん。意地悪なキツネさん。とぼけたブタさん等々たくさんの人形たちが待っている。みんな明日は私を連れて行って、と言っている。

お人形たちの話の中には昔の横浜の話がよく出てくる。私は子どもの頃、野毛では大道芸を、阪東橋のお風呂屋さんの二階にあった三吉劇場では、旅回りの一座のお芝居を観た。実家のすぐ隣りには、三味線のお師匠さんが間借りしていて、夕方になると粋なツン・トン・シャンが聴こえてきた。今は若者の映えスポットになっていくみなどみらい地区。昔は三菱ドックがあつて、京急戸部駅からぞろぞろと多くの人々が我が家の前を歩いて通勤していた。夕方、七輪でサンマを焼いていると、「今日はサンマかい？うまそうだね。」と声をかけられたものだ。私が育った横浜の下町は、そんな町だった。

近年、横浜の赤レンガ倉庫では、女優の五大路子が、「横浜メリー」を毎年上演している。伝説の高級娼婦メリーさんを、私は何度か見かけたことがある。あの独特の真っ白な姿で伊勢佐木町に立っていた。タバコをふかしながら「子どもなんかあつち行きな。」と近寄りたいたい凛とした雰囲気漂わせていた。今となっては、彼女も横浜の一風景だった気がする。「ジャズ喫茶ちぐさ」も

閉店して新しく生まれ変わるらしい。「ちぐさ」と聞くと、私は横浜駅地下にあった「ちぐさ」という焼きそば屋を思い出す。そばの上からホワイトソースをかける、、、当時めずらしいスタイルで、そのソースが通常のものとは、色も味も変わっていておいしかった。二度と会えない人、二度と味わえない味。しかし、おぼろげになりながらも、その記憶は私の中に残り、私の体の一部となっている。

そんなハマツ子の想いを話題にとり入れながら、今日も人形との二人旅を続けている。講演会、お祭り、あちこちの施設の行事等々。そういえば、先日ある高齢者施設を訪問した。人形が昔の懐かしい唄を歌うと、多くの方が一緒に口ずさんで懐かしんでくださった。しかし、中に「そんな古い歌知らないから、もつと新しい歌にして」と言われた方がいた。聞けば、私よりいくつか歳下だった。若いつもりでいたが、自分もいつの間にか古希を迎えていたのだ。しかし、いつまでも歳をとらない私の相棒と一緒に、これからもゆ



つくろいと旅を続けようと思

iceco スーパー生鮮館 TAIGA JPX 地域未来創利会

“I Care Everybody Company”
あらゆる人々に慈しみの心をもって
接する企業でありたい




フロースン事業部
アイスクリーム・冷凍食品の卸売

スーパーマーケット事業部
スーパー生鮮館TAIGAの運営

Y校だより

◆「着任のご挨拶」

横浜市立横浜商業高等学校
校長代理 杉浦 正典



平成25年にY校別科の副校長に着任し、3年間Y校別科で勤務しておりました。そして、今年3月末に、Y校本校への異動の辞令を拝命し、Y校の校長代理として勤務することになりました。Y校別科では毎週の朝礼で生徒が校歌を歌うのが慣例となつています。7年ぶりにその聞きなれた校歌を耳にする機会を与えて頂き、非常に懐かしくもあり、嬉しくもあります。生徒心得にもあるように、常に心の誠の精神を忘れず、学力向上のもと進路実現に向けて、品性を磨き、健康の増進を図るとともに、規律ある自治的校風を充実・発展するよう努力する生徒の育成に尽力していきたいと存じます。

この原稿を書いている時期（7月中旬）は県内のコロナ感染者が急増しております。本校生徒も罹患している旨の報告を聞く頻度が増えてき

ました。少しでも早く、以前の生活が戻り、全ての学校行事が通常通り実施できるようになってもらいたいものです。

進交会の皆様におかれましては、本校の教育への多大なるご理解とご支援に感謝しかございません。今後でも大変お世話になると思います。よろしくお願ひ申し上げます。

◆着任挨拶

横浜市立横浜商業高等学校副校長
西岡 健一



4月に副校長として着任いたしました西岡と申します。

1991年3月に本校を卒業する時にはすでに母校の教員になることを心に決めていました。やっとの思いで教員採用試験に合格し働き始めたその年に、120周年記念式典が盛大に執り行われました。商業科の教員は異動先が限られていることもあり、初任でありながら勤続18年。その間、自身も所属していた卓球部の顧問を務め、担任としてはもちろん、異動する直前までスポーツマネ

ジメント科主任として6年間、Y校生、保護者、卒業生、地域の方々に育てていただきました。昨年と一昨年は三部制定時制高校である横浜総合高校で経験を積ませていただき、再び記念すべき年にY校で新たな一歩を踏み出すことになりました。

初代校長美澤進先生の恩師として知られる福沢諭吉先生の著書『学問のすすめ』の中に「進まざる者は必ず退き、退かざる者は必ず進む」という言葉があります。これまでのY校がそうであったように、常に進化・真価・深化・新価を意識しながら職務を全うしたいと考えております。

この進交会報をご覧のみなさまも、Y校への思いがあるからこそペーじをめくっていただいているのだと思います。私は私なりの思いをもって、Y校のために尽力したいと考えております。今後ともご支援・ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

◆「時代とともに変革していく商業教育」

商業科教科主任 宝珠山 悟

令和もすでに四年目を迎えています。現在は新型コロナウイルス感染症の大流行など先が読めない時代となっております。企業における働き方も職場での一斉就業の形から、自宅を含めたさまざまな場所でのオンラ

インによる就業形態へと変化がみられています。

私たちが日ごろ行っている商業教育もそうした影響を感じざるを得ません。教室で行っている座学の重要性は、当然現在でも高いものになっています。

しかし、先にも述べたように実務の世界ではさまざまな変化がみられており、そうした変化を私たち高校生も対応していく必要が生じています。そうした変化に対応していくためには、教室内での教育だけでは難しくなっています。実務の世界との関りがこれまで以上に求められています。

そのためには、地域を含めた多くの人たち及び企業・大学などの交流・連携が必要になってきます。これまで以上に深く長期的なつながりを持つことが私たち商業教育を推進している商業科教員に求められます。今後は、そうした諸団体との連携を深め、その連携の中で、生徒自らが探究学習を行える環境作りが今後の大きな課題となっていくでしょう。そのためにも皆様方の御協力をいただく必要があります。どんどん外へ目を向けた教育活動を行ってまいります。その時は、暖かくも厳しい御指導御鞭撻のほどお願い申し上げます。

◆YBCクラスの近況報告

YBC経営会議主任 佐藤 邦宏

YBCクラスでは、次代を切り開くビジネスリーダーを育成することを目的とし、大学進学を前提としたカリキュラムで、幅広い教養とビジネスの基礎基本を習得します。次代のビジネスリーダーとは、今までの当たり前が当たり前ではなくなるこれからの時代に、前例にとられず物事の本質をとらえ蓄積した情報をもとにゼロから解決のフレームワークを考えていける人材です。高大7年間を見据えたカリキュラムと特別プログラムを通して、将来設計を進めながら、将来のスペシャリストを目指します。

この文章は、学校案内に掲載されているものです。昨年度は、課題研究において関東学院大学との連携や、横浜市立大学などで講義を体験させて頂き、リーダーとしての資質を磨くことはもちろん、大学で何を学びたいのか、各プログラムを通して下級生のうちから行きたい大学への意識を強めています。また、放課後には英検の講習会やWEB演習システム（タブレットやスマートフォン）を導入し、学習面のサポートも行っています。

令和4年3月の卒業生の進路状況は、38名中22名が4年生大学に進学、「一般受験合格者が6名（明治、立教、東洋等）学校推薦型・総合型選

抜16名（横浜市立3名、法政、中央、國學院、駒澤）等」専門学校7名、公務員4名、民間就職1名、進学準備者3名となっております。

◆国際学科の近況報告

国際学科長 小島 寛子

国際学科では国連が提唱する持続可能な開発目標（SDGs）を自分ごととして考え、未解決の社会課題に主体的に取り組む姿勢を育んでいます。特に他者との対話を通して深めた考えを「行動」に起こすことを目標に、様々な活動を行っています。例えば難民支援のために本の寄付を募ったり、アフガニスタン支援のためにパネル展示や募金活動を行ったりしました。有志でウクライナ支援のグッズ作成・販売・寄付を行ったのも反響が大きかったです。今後も「主体性」「協働力」「課題解決能力」を重点的に国際学科の教育を展開していきます。

7月16日には国際学科の最大行事YSF・JをY校で実施しました。コロナ感染症予防に注意を払いながら、10校の招待校の生徒を含め約100名が集いました。今年のテーマは「共生社会」で、「マイノリティ」「大量生産・大量消費」「学校教育」「難民」「行政」という5つの視点から共生社会について話し合いました。人が変われば社会が変わる、社会が変われば人も変わるという主張の元、人と社会の双方にどんな変化を求めるとかを最後に発表しました。12月のYSFでは使用言語が英語になるので、会議資料を英語でまとめたり、英語で発表や議論したりしていきます。海外の方と交流が難しい今だからこそ、英語を使える環境を最大限に活かせるよう準備をしていきます。

◆スポーツマネジメント科の様子

スポーツマネジメント科 主任 坂本 静香

スポーツマネジメント科は今年で9年目を迎えました。現在のスポーツマネジメント科は、部活動や学校外のクラブチーム等に所属し、将来の進路はスポーツ選手を目指す生徒、スポーツをビジネスにしたいと考えている生徒、スポーツ選手やその活動を支えたいという生徒が大半で、学校生活、学校行事、学科行事それぞれに意欲をもって臨んでいます。

今年度も海外研修旅行は中止となつてしまいましたが、国内での研修旅行や学科行事を通して、スポーツの体験とスポーツビジネスの裏側を体感できるようなプログラムを考えています。

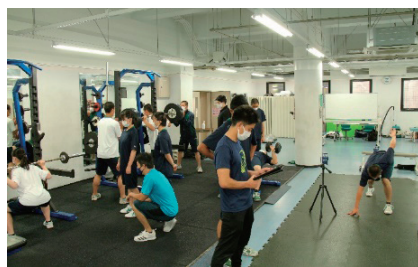
令和4年3月、長年力を尽くしてくださった花木トレーナーが退職され、4月から3名のスタッフを迎え

ました。新たな気持ちで今まで以上に生徒たちにとって有意義な活動が提供できるよう取り組んでいきたいと思えます。

◆Y校生の進路について

進路キャリアアドバイザー 主任 井上 隆博

現在、わが国は少子高齢化による生産年齢人口の減少、AIの進化と普及による職業構造の変化、新型コロナウイルス感染症の拡大などによって大きな転換期を迎えています。それに伴い、生徒の進路にも変化がみられています。



大学入試に関しましては、一昨年から新しい入試制度及び名称となりました。それまでの大学入試は、一般入試、AO入試、推薦入試という3つの入試区分が設定されていましたが、一般入試は一般選抜に、AO入試は総合型選抜に、推薦入試は学校推薦型選抜へと、それぞれ名称が変更されました。さまざまな側面から社会構造が変化しているなか、社会に人材を供給する立場にある大学も、大きな変革を迫られているためです。これまでの「知識・技能」だけでなく、社会を生きる力として課題解決能力などが求められるようになったことから「思考力・判断力・表現力」を一層重視するという考えが新入試制度のベースにはあります。高校においても、「知識・技能」だけではなく、「思考力・判断力・表現力」、「主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度」を育成することが求められていきます。

これからは、高校での学びをいかに大学での深い学びに紐づけするかが問われ、高校・大学の7年間のスパンで自分の夢の実現を考えていく時代になったと考えています。

また、昨年度、民間就職に関しましては、コロナ禍という先の読めない中での就職活動を余儀なくされました。求人数の減少も危惧されましたが、予想していたほどの減少はなく、最終的には38名が内定を頂きました。

した。企業は、明るく元気で健康であることはもちろんのこと、コミュニケーション能力や行動力、調整力、協調性や主体性を求めています。今年度も、計画的に就職活動に取り組むことで内定を勝ち取ってほしいと思います。

そして、近年、本校生徒の進路先の特徴として見て取れるのが、公務員希望者の多さです。本校には専門学校と連携し、年間40回を超える講習会やさまざまな自治体の採用説明会など充実したサポート体制があります。結果として、昨年度の卒業生は、延べ総数で59名の最終合格をいただいております。これは、他校と比較をしても圧倒的な数であると思われまます。

今年度の3年生の進路希望は、7月1日現在、民間就職16名、公務員43名、大学・短大188名、専門学校22名となっております。コロナ禍ということも影響しているのか、大学・短大志望者が大きく増加し、公務員希望も相変わらず人気です。今後も、生徒が自ら選び、決定した進路の実現に向けて引き続き支援していきたいと考えています。これからAIとの共存社会がやってきます。そのなかで活躍するために、成長意欲や向上心を持ち、自発的な行動を心がけ、同じミスや失敗を繰り返さないようにすることで、人間にしかできない「考える力」を高めて

いってほしいと思っています。

◆Y校おやじの会

会長 大山 幸雄

創立140周年おめでとうござい
ます。

おやじの会は、Y校を管理されている職員の方々とサポートする為、保護者を中心となり2005年に発足いたしました。現役の保護者とアドバイザーとしてOBが参加し、Y校を陰で支えるべく精を出して活動をしております。

主な活動は、Y校内の庭園や施設の清掃整備・維持管理活動となりま
す。月1回2時間程度の清掃活動を行い、その後、汗を流しに銭湯に行きます。そして、地域のおいしいお店での懇親会にておやじの会の活動について積極的な意見が交わされるのですが、現在はコロナウィルスの状況を見ながら活動しております。

その他にも様々な活動を行っており、大きなイベントとしては、Y校祭で毎年模擬店を出店しておりますが、残念ながら新型コロナウィルスの影響が続いており、今年もY校祭への参加はできません。

生徒の皆さんもこのコロナ禍という新しい生活スタイルの中、いろいろと模索しながら学校生活を送られております。

おやじの会としても、会員の皆様方の英知を結集させ、生徒たちがよ

り良い学校生活を送れるよう全力でサポートしていきたいと考えております。

おやじの会は今後もY校の発展や地域の為に陰ながらサポートをできるよう精いっぱい頑張りますので、引き続きご支援、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

Y校部活動だより

◆硬式野球部活動報告

硬式野球部顧問 廣濱 優

日頃より多大なる御支援御声援をいただき誠にありがとうございます。今年度も、コロナウィルスの影響による制限はあるものの、例年通りに春季県大会、選手権大会が開催されることをありがたく存じます。

この126期は、学校のはじまりが2か月遅れるところから高校生活が始まりました。いろいろな場面で影響を受けてきた学年でした。秋季県大会では、3回戦で星槎国際湘南高校と対戦し、0-5で完封負けを喫しました。この、悔しい思いを晴らすために、必死で歯を食いしばりながら半年間、仲間同士で切磋琢磨して成長してきました。

4月から行われた春季県大会では、18年ぶりのベスト4に進出し、選手権大会の第一シードを獲得しました。ただ、準決勝では、桐光学園高校に8回コールドの完敗でした。

この大会や試合から自分たちに足りないものを確認できたことは、選手権大会に繋がる非常に大きな収穫となりました。このベスト4という結果におおらず、選手たちは常にチャレンジヤーとして挑戦し続けて取り組んでいます。7月から開催される選手権大会に向けてより一層精進して取り組んでいきたいと思っております。

最後に、春季県大会では、多くの関係者の方々に球場まで足をお運びいただき、熱い御声援誠にありがとうございました。引き続き選手権大会では、さらなる活躍ができるよう努力してまいります。引き続き御指導御鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



◆Y校軟式野球部
67年振り関東大会準優勝

軟式野球部顧問 佐藤 邦宏

昨年度、全国選手権出場に際し、進交会員の皆様には応援と多大なご厚志を頂きましたこと、心より感謝申し上げます。

さて、4月より行われました第70回春季関東地区高校軟式野球神奈川県大会において、10年ぶり2度目の優勝を果たしました。大会直前に、野手で活躍している選手を本格的に投手に転向させ、不安もありましたが、粘り強い投球で優勝に導きました。特に決勝の三浦学苑戦では、延長15回を一人で投げ抜いたことは自信になりました。

軟式野球部は、夏に照準を合わせるため、春は勝てないというジンクスがありました。それを打ち破ってくれる優勝でした。引き続き行われました関東大会でも、初戦佐野日大(栃木)、2回戦成立学園(東京)、準決勝八千代松陰(千葉)に快勝し、67年振りに決勝に駒を進めました。

決勝の相手は、昨年度、全国選手権で優勝した作新学院でした。結果は、両投手の好投で9回までお互いに0が並びましたが、9回裏作新学院が0アウト1・3塁のチャンスでサヨナラ打を打ち、残念ながらサヨナラ負けを喫しました。

悔しい敗戦でしたが、関東大会準

優勝は、自信にもなり、私たちの力のなさも痛感させてくれました。夏の大会では昨年度に引き続き全国選手権に出場し、勝利できるように精進していきます。今後ともご声援のほどよろしくお願い申し上げます。

◆卓球部 活動報告

顧問 内田 涼介

日頃より多大なるご支援ご声援をいただき誠にありがとうございます。新型コロナウイルスの影響により、観客動員に制限はあるものの例年通りに関東高校卓球大会や全国総合体育大会の予選会が開催されることをありがたく存じます。

関東高校卓球大会の神奈川県予選では女子団体が2位に入賞し、関東大会に出場しました。関東大会は千葉県のパルドラル浦安アリーナで行われ、一回戦に栃木県の真岡女子高等学校と対戦しました。結果は1対3で負けてしまいました。1勝はしたものの、実力差を感じた試合となりました。選手たちは、この試合からたくさん学ぶこと、ようやく関東大会で勝つということのレベル高さを知ることができたと思います。この関東大会は14回連続、35回目の出場になります。この出場記録を今後も伸ばしていくと同時に、関東大会でも活躍できるチームづくりを励んでいきます。

7月に行われた全国高等学校総合

体育大会神奈川県予選をもって3年生は引退になり、現在は1、2年生が中心の新体制が始まりました。3年生がつなげてくれた大きな実績を新体制でも受け継ぎ、さらに上を目指していける部活動として日々活動をしていきます。今後とも卓球部の活動にご支援ご協力のほどよろしくお願いいたします。



◆「最後は気持ちで決まる」

ボート部顧問 會田 尚貴

「最後は気持ちで決まる」。昨年、福井県で行われたインターハイのミーティングで毎日私が言っていた言葉だったそうです。あまり意識してこの言葉を言っていたつもりはなかったのですが、後から選手に聞いてみると毎日同じことを言っていたとか。

ボート競技は他の競技と異なり、水上に出ると指示を出すことができません。野球であればここぞという場面で監督がサインを出すことができます。サッカーであればベンチから声をかけることがあるでしょう。しかし、ボート競技は棧橋から艇が離れた瞬間、選手自身がすべてを考え、判断しなければなりません。前日のミーティング通りのレース展開になるかもしれないし、まったく異なった展開になるかもしれない。それでも監督はレース中に指示を出すことができないので最後は選手たちで、しかも瞬時に決めなくてはならないのです。監督は選手を信じるのと以外はできません。ある意味、腹をくくって選手を棧橋から送り出します。レースが始まるまでの時間はドキドキするしかありません。これがボート競技の醍醐味であり、楽しさであるのですが・・・。

を整えることなのだと、昨年のインターハイを通じて私自身が学びました。

練習量も、時間も、内容も、日本で一番のはず。そのとき、何が勝負を決めるのかというとき、「気持ち」なのだと思います。最後はチームの、選手の、指導者の「てっぺんを取る」という気持ちがかみ合ったとき、そこに大きな奇跡が生まれるのだと、そしてそれは生まれるべくして生まれるものなのだと感じました。

昨今は働き方改革が叫ばれるなか、部活動の負の側面ばかりが取り上げられます。しかし、高校生という多感な時期だからこそ、そしてY校生だからこそできることがあるはず。人生で二度とないY校生活と部活動を充実させることが、私達の役割なのだと再認識させられた、このコロナ禍の二年間でした。

◆「部活動の在り方とは」

簿記部顧問 宝珠山 悟

令和3年10月に簿記部は活動を開始（再開?）しました。当初は部員七名でスタートしました。現在は新一年生も含めて六名で活動しています。部員数は少ないながらも、平日は約三時間、土曜日は六時間と長時間活動しています。現在高校や中学校での部活動のあり方や活動内容が問われています。そうした状況で果

たして長時間の活動が必要なのか、日々考えて活動しています。

私たちが簿記部の活動目的は、「部員の進路実現」です。大学などに進学をした後、会計関係の仕事、具体的には会計士・税理士あるいは企業での会計職などを目指す中で、必要となる土台を作っていくことを重視しています。ゴールであるその目的にたどり着くための、目安となる目標が、「日商簿記一・二級合格と全国高等学校簿記競技大会出場」です。目標を通過することが、将来の目的達成につながるからです。そのため、日ごろからコツコツと学んでいく姿勢を作り上げることが大切になり、長時間の活動を通してそのような姿勢を作り上げることが出来ると信じて活動しているのです。

この記事を書いているのが7月中旬ですが、簿記競技大会神奈川大会で二年生部員が個人総合優勝を果たし、7月後半に開かれる全国簿記競技大会に個人出場することが決まっています。これも日ごろの活動の一つの成果です。コツコツと学ぶ姿勢作りが意味のある事が証明されたのだと考えています。

創業88年の
パッケージメーカー

横浜リテラ



4月より新第2工場が本稼働！
詳しくはコチラから



ご相談・お見積りなどお気軽にお問い合わせください

〒245-0053 横浜市戸塚区上矢部町1965-4 TEL:045-811-2821

◆「母校の高校生を前に
租税教室の開催」

村上 幸宏（昭47卒）

卒業して49年後、令和3年12月6日に出身高校の横浜市立横浜商業高校（通称名「Y校」）において、租税教室の講師として後輩の皆さんを前に教壇に立たせていただき、とても感慨深いものがありました。

はじめに、在学生の皆さんと私は、一般社団法人進交会の会員として同窓会の仲間という関係になることや進交会のホームページは、内容が充実しているので開いて見てほしい旨を伝えました。

そして、身近な生活を通じて税金に関心を持ってもらいたいと思い、次のようなお話をしました。

『本題に入る前に、皆さんに聞きたいのですが、今朝、食事を摂ってききましたか？』

はしやお茶碗、炊飯器、バターやジャム、トースター。これらは必要なものですが、果たして皆さんは、それを自分で作れますか？

出来ないですよね。
スマホの使い方は、熟練していてもスマホを作れませんね。アプリのアイデアは出てもアプリを作ること難しいと思います。

どうやって手に入れるかというところ、ご家族が仕事をして、収入を得て、それらを買っていると思いません。ご家族に感謝してください。

それでは、自分で何ができるか考えてみましょう。物を作ることはなかなか難しいので、掃除、片付け、中には料理をしてご家族にサービスを提供するという人が居るかもしれないが、一番大切なものは、勉強することでしょうか。

誰かが物を作ってくれていて、サービスの提供をしてくれています。それで、私たちの生活が成り立っていることに、先ず思いを至らせてみてください。

私たちの日常とこれから話す税金のことを重ね合わせて考えてください。」

本題の税金の話では、「税は、どうしてあるの？」「税の役割は、何だろう？」をテーマに、①公立学校の生徒の一人当たり教育費や公共サービス、社会資本の整備など税金の使われ方、②納税の義務の根拠、③税の分類、④消費税が導入された背景、⑤財政の状況としての国債の累積残高について説明後、社会人として身近になる所得税について、事例の源泉徴収票に基づいて、確定申告書を作成してもらいました。

結びに当たって、脳科学者の茂木健一郎さんの「脳に負荷をかけることが、脳の喜びになると気付いた人は、伸びる。」という言葉を借りて、これまでに学んだこと、これから学ぶことを物づくりやサービスの提供につなげて、ご家族や社会に生

かしていったってほしい旨エールを送り、租税教室を終了しました。



進交会囲碁クラブからのお知らせ

当クラブは現在、登録会員36名で毎週火曜日と土曜日の午後、進交会館3階で、週例会合を行って居ります。

是非この機会に皆様からの当クラブへのご加入を、歓迎いたします。

詳細は……進交会事務局まで

☎045-681-6575

会長 名塚 三郎（Y昭20⑤）

麵処 おおぎ (進交会館1階)
うどんと酒肴



◎馬車道・横浜市役所前店(進交会館1F)
横浜市中区相生町6-111 電話 045-681-2152

◎大通り公園前本店
横浜市中区蓬萊町1-1-3
電話 045-243-0390

◎常磐町店
横浜市中区常磐町3-22-3
電話 045-232-4040

tatesin

商業施設・オフィス・リノベーション・設計施工

株式会社タテシン

会長 渡辺清和

(Y校 昭和45年卒 バドミントン部)

一級建築士事務所

〒232-0022 横浜市中区高根町4-29

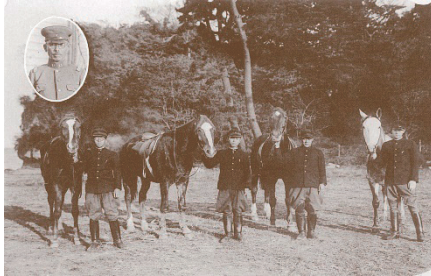
☎045-242-1320 ☎045-262-4026 (不動産部)

Y校140年間の部活トピックス

珍しい部活、全国大会で優勝した部活、それに準ずる成績を残した部活をとりあげました。



アイスホッケー部 (昭和12年)



馬術部 (昭12年)



ボート部全国大会・国体男女
アベック優勝 (昭36年)
女子連続優勝 (昭36・37年)



フェンシング部全国大会優勝 (昭38年)



卓球部全国大会優勝 (昭39年)



ホッケー部全国大会優勝 (昭40年)



硬式野球部 春・夏、国体・
全国大会準優勝 (昭58年)



軟式野球部国体優勝 (昭62年)



書道部 全国高校総合文化祭
特別賞 (平22年)



カヌー部 全国大会男女優勝 (平16年)



英語部全商スピーチコンテスト
神奈川県大会優勝 (平22年)

Y校校歌と森鷗外

内田 正雄 (昭35卒)



『栄行く御代の
の民草我等…』
で始まる横浜市
立横浜商業高等
学校 (以下Y

校)校歌の作詞は横浜市歌と同じく森鷗外である。鷗外は「阿部一族」「山椒大夫」「大塩平八郎」など歴史小説を書く文豪として名高いが市歌・校歌も200近い作品があるとされている。私の手元に「森鷗外博士作の校歌制定―博士、深く先生に傾倒さる―」と題されたA4紙コピーがある。出版物のコピーと思われるが、原本名も作者も明記されておらず、私も誰から頂いたのか記憶にない。なぜ、Y校校歌の作詞者が森鷗外になったのかを知る貴重な内容であるため、部分を引用する。「森鷗外博士作、小松耕輔氏作曲の校歌が制定されたのは、大正5年であった。職員会議の席上で、校歌を制定しては如何との議が、一職員から提案された。美澤先生はこの提案を即座に採用され、作詞は鷗外博士にお願いすることに決めた。数日後、博士は訪問した先生の申し出を聴かれ言下に快諾する。先生は内容則と校訓の精神を酌入れてほしいと語られ、博士はまことにご同感です。早速作ませう、といわれた。原

稿を受け取りに向いた武井氏に対して博士は「Y校はよき校長を得た、あの方ならば、こちらから進んで作ってあげたい」とまで言われた。先生の飾らざる率直な弁、真摯熱心なる態度に、博士は心から敬服されたのである。Y校に入学してすぐ、新入生は放課後に応援団の先輩から校歌と応援歌の特訓を受ける。暴力こそ無いが怒鳴られ、脅かされての長時間の練習には閉口した。しかし、その甲斐あってか横浜平和球場での野球の応援、他校との交流戦などに声高らかに斉唱出来た。Y校校歌に対しての想い出は限らないが、硬式野球部が甲子園で勝った後、隣り同志で肩を組み、身体を揺らして歌うのは格別である。Y校野球部は春夏合わせ16回甲子園に出場している。幸運にも大阪に転勤していた私は、昭和54年夏宮城投手を擁しての出場以来、何度もアル



プス席で校歌を歌うことが出来た。もう一つは、平成13年9月横浜Y校会の「森鷗外と津和野の旅」に近畿Y校会のメンバーも同行した。2日目津和野の「森鷗外記念館」で、他館の入館者が何ごとかと訝かる中、参加者全員が中庭に整然と並び校歌を斉唱した。忘れ難い思い出である。

森鷗外記念館を訪ねて

大宮 勲 (昭48卒)

神崎政敏 (昭27卒)さんの勧めにより、3月31日(木)Y校会事務局安川栄一(昭44卒)さんと森鷗外記念館を見学してきました。記念館は森鷗外の旧居宅で1,056㎡(320坪)の敷地に255㎡(約77坪)の建物があった場所です。当時は2階から東京湾が見えたので、森鷗外が観潮楼と名付けたとのことです。しかし、今は高層ビルの乱立でスカイツリーの一部が見えるだけのようです。

入口で係員の女性に、Y校の校歌の資料を見せ作詞者が森鷗外だと説明しましたが、「そう言えば最近、高校の卒業生の方がよくみえる」程度の返事だけで、Y校という言葉は聞けませんでした。誠に残念な思いです。展示室はB1Fで森鷗外の幼少く東大医学部く陸軍軍医く日露戦争く作家生活く死去迄の写真、手紙等が展示され、映像コーナーでは森鷗外の写真、著名な友人、知人との

逸話等が映し出され、約30分視聴し見学の所要時間は約90分でした。

大正5年に美澤進先生がY校の校歌の作詞を依頼するためにこの森鷗外宅を訪問し、この旧居宅の書齋で森鷗外がY校の校歌を作詞したことを想像するとY校のもう一つのルーツを感じざるを得ませんでした。そしてそのわずか6年後の大正11年に森鷗外は病没していますが、まるでY校校歌の作詞に全精力をつぎ込み使い果たしてくれたのではないかと感無量の思いがします。(かなり誇張した言い方ですが!!) 帰路は谷中銀座を経てJR日暮里駅までY校の校歌を口ずさみ、約30分そぞろ歩きしてきました。



正面外観



【森鷗外記念館】
所在地 : 東京都文京区千駄木1-23-4
電話 : 03-3824-5511
アクセス : 東京メトロ千代田線「千駄木」駅下車徒歩5分
開館時間 : 10:00~18:00
観覧料 : 300円

Y校会だより

☆Y校会について

Y校会とは？ ↓ Y校市大の同窓会の一般団法人進交会の内Y校卒業生で構成する任意団体です。
 目的は？ ↓ 母校Y校及び在校生への支援と会員相互の親睦を図ることを目的として活動しています。
 会費は？ ↓ 年間1,000円以上です。

※進交会会費(終身会費300,000円 年会費3,000円)とは別枠になります。
 この機会に、是非、Y校会会費の納入にご協力をお願いします。

☆お問合せ・詳細は...
 Y校会事務局 安川(昭44卒)
 杉本(昭55卒)迄

電話045-681-6575

☆Y校会活動について

【Y校商業科アピール用リーフレットを作成しました】

近年、全国的に商業高校への志願者数が減少傾向にあり、Y校も同様な状況に置かれていることから、商業科の魅力をアピールし志願者増加につなげたいとの商業科教諭の発案によりリーフレットを作成しました。



リーフレットには、卒業生インタビューの掲載、進学、普通教科にも力を入れていること、また商業の資格取得が将来の武器になること、他、探求学習やICTの活用を力を入れていることをアピールしています。

リーフレットは学校説明会や中学校訪問説明会、中学校への配布等で活用します。

Y校会では、企画、費用面で支援しています。

【Y校生への海外研修支援金】

海外研修を目指すY校生。その志に添えて、ニューヨークへの研修生に1名10万円、総額20万円を限度として、台湾への研修生には1名5万円、総額10万円を限度として毎年支援しています。

令和3年度はコロナ禍により中止となり、支援はしておりません。

【Y校生のSDGs 活動支援】

令和3年度は総額20万円を支援しました。

【今年度の主な行事】

- 5月 社会見学会(本年は中止)
- 7月 歌舞伎鑑賞教室(実施済)
- 9月 故美澤進先生100回忌・墓前報告祭(実施済)
- 11月 Y校創立140周年記念式典・祝賀会
- 12月 落語鑑賞会

◆Y校会 令和3年 収支報告書 (令和3年1月1日～令和3年12月31日)

【収入】

科目	一般会計	母校支援基金	合計
前期繰越	1,989,744	4,174,316	6,164,060
Y校会会費	1,159,938		1,159,938
利息	12	32	44
合計	3,149,694	4,174,348	7,324,042

(単位 円)

【支出】

科目	一般会計	母校支援基金	合計
部活動・同期会支援金	60,000	0	60,000
墓参会費用	45,110	0	45,110
会議費	39,330	0	39,330
郵送費	193,984	0	193,984
郵便局手数料	69,185	0	69,185
SDGs活動支援金	200,000	0	200,000
印刷費	3,213	0	3,213
雑費・消耗品	3,763	0	3,763
振込手数料	440	0	440
その他事業費	48,050	0	48,050
慶弔・見舞金	25,534	0	25,534
合計	688,609	0	688,609
次期繰越	2,461,085	4,174,348	6,635,433

140周年ロゴマーク



(Y校生徒が考案しました)

Y校140周年記念式典・祝賀会のお知らせ

【記念式典】 日時：11月11日(金) 12時30分開式
 会場：みなとみらい大ホール

【祝賀会】 日時：11月12日(土) 12時 開宴
 会場：横浜ロイヤルパークホテル
 費用：12,000円(記念品・記念誌代を含みます)

【お問合せは】

進交会内 Y校会事務局 安川迄

電話 045-681-6575 FAX 045-681-6585
 e-mail : shinkokai@nifty.com

応援歌【Y校の意気】

安川 栄一（昭44卒）

Y校入学直後の応援練習から今日まで、代表的な応援歌「Y校の意気」を内容も解らず、何度も歌ってきました。今回、加納和明元Y校教諭（昭26Y卒）にご教示いただき、私なりに文語体の歌詞を現代の口語体に訳してみました。それにしても、「Y校の意気」は当時のY校生が作詞したことですが、Y校生のレベルの高さに只々驚き尊敬するばかりです。

Y校の意気は、Y校生徒が作詞し、明治42年（1909年）美澤進校長の還暦祝賀会で初めて唄われました。

この原曲は明治34年（1901年）に制作された「アムール川の流血や」（旧制第1高校の寮歌）で、作曲は栗林宇一、更に曲の原型は永井建子（男）作曲の軍歌「小楠公」とのことです。

その後明治44年（1911年）、加藤明勝がこの曲を流用して「歩兵の本領」を作詞し、日本を代表する軍歌のひとつとして広く愛唱されました。

— 歌詞の解釈案 —

	歌 詞	解 釈 案
1	禁令固き御朱印の 影に結び て夢深し 黒潮御国を訪えど 覚むとしもなし200歳	幕府はキリスト教禁圧の為「海外渡航禁止令」を発し、朱印船貿易を厳しく禁止した。 禁令の影響で、国全体が深く眠っている状態になり、海では黒潮が変わらずに日本を訪れ巡って来ているのに、国際情勢に目覚める時もなく、200年（鎖国期間1641年～1853年）も経ってしまった。
2	浦賀の沖の砲声や 島根の春 を誘いけん 万朶の花は香に 匂い 千古の雪は色に映ゆ	浦賀に来訪したペリー艦隊が発する号砲が島国日本の春（鎖国解除による開国）を誘い出したのであろう。 満開の桜の花は咲き香り、永久（とわ）の雪（富士山の雪）もひかり輝いている。
3	花彩の国の一角に YCSの 旗高く 星霜ここに140年 盟は固し我が母校	花で彩られた国、日本の一角にYCSの旗を高く掲げて、140年間「誠の心」固く守っているのが我が母校である。
4	旗色動かば忽ちに 鯨鯢吼ゆ る北海や 猛虎雄叫ぶ南洋も 波蹴破りていざ行かん	旗色（形勢）が変われば即動く オス、メスのクジラが吠える北の海や、猛虎が雄叫ぶ南国の海へも、波を蹴散らしいざ行かん。

コンビニエンスストア、スーパーストア、百貨店、
専門店、銀行など、多彩な事業を展開し、
時代とお客様のニーズに応え続ける
セブン&アイグループ。
私たちは、毎日の暮らしに寄り添い
社会とともに進化するグループを目指します。



<https://www.7andi.com>

Rim

create the new thing and send it

広告企画・デザイン制作立案・印刷全般
スポーツウエア・ユニフォームプリント

株式会社 ライム

本 社
〒231-0011
横浜市中区太田町6-84-2
大樹生命横浜桜木町ビル5F
TEL.045-306-7722

弘明寺ファクトリー
〒232-0067
横浜市南区弘明寺町259
GM2ビル3F
TEL.045-315-5918

訃報

鈴木隆一 (旧職員)	令和元年	山本衛輔 (昭46 Y)	高橋俊明 (昭36 Y)	小池登喜子 (昭29 Y商)	外野弘規 (昭29 Y商)	佐藤一良 (昭27 Y旧)	鶴田藤太郎 (昭24 Y旧)	入澤禮哉 (昭14 Y)	平成30年	新田保二 (昭44 Y)	田中良幸 (昭32 Y)	服部吉宏 (昭29 Y普)	平田政司 (昭26 Y商)	新井了夫 (昭26 Y商)	原邦治 (昭23 Y)	平成29年	服部貞朗 (昭27 Y商)	井上吉夫 (昭26 Y商)	新井鶴平 (昭17 Y)	岩崎俊正 (昭15 Y)	波多野正弘 (昭41 Y)	平成28年	久保克弘 (昭40 Y)	小沢文司 (昭18 Y)	青柳淳一郎 (昭17 Y)	吉田博一 (昭15 Y)	平成27年	黒川武 (昭26 Y商)	平成26年	浜田治男 (昭33 Y)	大久保栄吉 (昭20 Y④⑤)	井上和夫 (昭20 Y)	平成25年	新井悦和 (昭41 Y)	横山悦和 (昭36 Y)	平成23年	石井保典 (昭17 Y)	平成21年	青木和子 (昭54 Y)	平成16年	北村忠久 (昭41 Y)	平成2年	渡辺久 (昭20 Y⑤)	平成元年	渡辺久 (昭20 Y⑤)
------------	------	--------------	--------------	----------------	---------------	---------------	----------------	--------------	-------	--------------	--------------	---------------	---------------	---------------	-------------	-------	---------------	---------------	--------------	--------------	---------------	-------	--------------	--------------	---------------	--------------	-------	--------------	-------	--------------	-----------------	--------------	-------	--------------	--------------	-------	--------------	-------	--------------	-------	--------------	------	--------------	------	--------------

安土博久 (昭27 Y商)	青柳正志 (昭26 Y商)	望月三雄 (昭26 Y商)	桑原久志 (昭25 Y)	飛崎宏夫 (昭25 Y)	五原貞夫 (昭23 Y)	笠原重雄 (昭23 Y)	岩切千朗 (昭21 Y)	市川孝一 (昭21 Y)	内藤忠克 (昭20 Y④)	濱田寿彦 (昭20 Y④)	高橋益彦 (昭20 Y⑤)	佐藤昭雄 (昭20 Y⑤)	及川昭二 (昭20 Y⑤)	北村常雄 (昭18 Y)	佐藤達郎 (昭16 Y)	令和3年	高橋泉正 (昭41 Y)	手塚英夫 (昭38 Y)	石井清剛 (昭37 Y)	白井龍孝 (昭34 Y)	佐藤真久 (昭33 Y)	細野孝久 (昭30 Y商)	相川勇夫 (昭30 Y普)	石井富士江 (昭28 Y普)	佐野島健 (昭27 Y普)	小磯村夫 (昭26 Y商)	増田秋夫 (昭23 Y)	令和2年	小藤信三 (昭42 Y)	藤林隆次 (昭38 Y)	岡野次治 (昭36 Y)	池田輯正 (昭31 Y普)	佐藤篤康 (昭30 Y商)	小代康正 (昭28 Y商)	荒井喜代克 (昭26 Y商)	服部季武 (昭20 Y④)	高野文次 (昭13 Y)	須藤勇次 (昭40 Y)	大矢次子 (昭31 Y普)	高山山雄 (昭30 Y普)	森田芳代 (昭27 Y商)	加倉喜脩 (昭18 Y)	大倉伴厳 (昭16 Y)
---------------	---------------	---------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	--------------	--------------	------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	---------------	---------------	----------------	---------------	---------------	--------------	------	--------------	--------------	--------------	---------------	---------------	---------------	----------------	---------------	--------------	--------------	---------------	---------------	---------------	--------------	--------------

岩崎保博 (昭30 Y商)	不明	服部敏之 (昭48 Y)	天野雄一 (昭46 Y)	狩野正幸 (昭45 Y)	矢野雄一 (昭40 Y)	長谷川正稔 (昭34 Y)	吉田俊雄 (昭30 Y商)	岩橋義雄 (昭28 Y商)	鴨志和光 (昭25 Y)	玉山上利道 (昭25 Y)	杉山文雄 (昭23 Y)	大塚健治 (昭23 Y)	岡本哲男 (昭16 Y)	京藤博和 (昭16 Y)	岩間博和 (昭16 Y)	令和4年	平石研次 (平11 Y)	鹿嶋芳誠 (昭44 Y)	大津多喜子 (昭44 Y)	植田共子 (昭42 Y)	小河美知子 (昭40 Y)	猪股たみえ (昭36 Y)	平田富子 (昭34 Y)	樋口忠昭 (昭32 Y)	樋口富生 (昭32 Y)	今井征四郎 (昭32 Y)	塚藤輝夫 (昭31 Y商)	佐藤規美 (昭30 Y商)	石黒勉 (昭30 Y商)	松本規光 (昭30 Y商)	麻生岐男 (昭30 Y商)	橋本規夫 (昭30 Y商)	廣瀬俊男 (昭30 Y商)	鈴木正治 (昭29 Y商)	塩田不二夫 (昭29 Y商)	後藤紀義 (昭29 Y商)	岩井正夫 (昭29 Y商)	吉井清夫 (昭28 Y普)	望月清夫 (昭28 Y商)	荒井清夫 (昭28 Y商)	相沢英夫 (昭28 Y商)	嶋田文勝 (昭27 Y商)	木村宣康 (昭27 Y商)
---------------	----	--------------	--------------	--------------	--------------	---------------	---------------	---------------	--------------	---------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	------	--------------	--------------	---------------	--------------	---------------	---------------	--------------	--------------	--------------	---------------	---------------	---------------	--------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	----------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------

編集後記

仲秋の候、進交会員の皆様には、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

今般、進交会報第88号も昨年のアンケート結果をもとに、前号同様、Y校版と市大版の分冊発行とし、文字や写真をできるだけ大きくして読みやすくなるよう改訂しました。

今般も皆様のご意見・ご要望を左のQRコードまたは進交会ホームページからおよせください。

さて、本年はY校創立140周年、市大医学部と附属2病院はそのルーツである「横浜仮病院」開院150周年を迎え、それぞれ周年行事を開催いたします。関連行事等につきましてはホームページも併せてご覧ください。今般も会報を通じて会員の交流が深まることを願っております。

コロナ禍拡大の中、皆様のご健康をお祈りいたします。

末尾となりましたが、ご寄稿・広告掲載いただきました方々に厚くお礼申し上げます。今般も皆様からの会報・ホームページへのご寄稿や広告掲載応募をお待ちしております。

会報・HP委員長
桑原 正子 (市大文昭41卒)



まごころ・信頼・サービスをお届けします。

株式会社 横濱屋

- 業務用酒類卸
- スーパーマーケット
- お酒スーパー
- 業務スーパー

〒232-0016
横浜市南区宮元町4丁目9番地 TEL 045(741)4747

Y校から今日(イマ)を目指して職人に賭けた『一生』
質実剛健を旨とし誠を尽くす職人になると
今、創業104年
量と値、小修理の専門店。和の文化を守る。

森下和装工業株式会社
代表 森下 正勝
昭37年Y校卒 (硬式野球部)
〒245-0004
横浜市泉区領家3-9-7 電話 045-811-4696

森下正勝 著 (文芸社)
『戦後日本の 光と影』 絶賛発売中